



2019 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 (SUPER FORMULA 2019) 第 2 戦:オートポリス (大分県日田市) レース報告書

予選: 5 月 18 日 (土)

天候	雨
観客動員数	2,450 人
成績	アレックス・パロウ 選手 (#64): 15 位 牧野 任祐 選手 (#65): 13 位

決勝: 5 月 19 日 (日)

天候	雨のち曇り
観客動員数	3,700 人
成績	アレックス・パロウ 選手 (#64): 6 位 牧野 任祐 選手 (#65): 4 位

<予選レポート>

TCS NAKAJIMA RACING のルーキードライバー 2 人が公式予選で速さを見せた開幕戦 (鈴鹿サーキット) から約 1 ヶ月のインターバルを経て、第 2 戦は SUPER FORMULA のシーズン中、唯一となる九州で開催されました。

新型シャシー「SF19」は、導入後、初めてオートポリスを走行することになります。レース展開について予測不能が噂される中、TCS NAKAJIMA RACING は、開幕戦での勢いを維持して公式予選に臨みます。

しかし、予選日は朝から悪天候に見舞われ、強い風雨が続くシビアなコンディションとなりました。朝のフリー走行は悪天候の影響でスタート遅延から始まり、セッション開始後もアクシデントが多発する混乱が続き、最終的には牧野任祐選手 (65 号車) のクラッシュにより赤旗が掲示され、セッション終了となりました。

牧野選手のマシンは修復を完了し、15 時の公式予選スタートを迎えます。

あいにく、予選セッションの開始後も雨は降りしきり、コースコンディションの回復が見込めなかったことから、各チームの代表者による協議の結果、翌日 (決勝日) の午前への延期が決定されました。

翌日の公式予選は 40 分間の計時セッションで行われましたが、この日も朝から雨天となり、赤旗が 3 度掲示される荒れた展開になりました。

TCS NAKAJIMA RACING の 2 台はアタックラップに臨むことができないまま、3 度目の赤旗掲示後にセッションが終了し、パロウ選手は 15 番手、牧野選手は 13 番手のグリッドが確定しました。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「悪天候により多数のアクシデントが発生し、混乱の中で終わってしまいました。ドライバーたちはまともにアタックラップに挑むことができず、明日の天候もどうなるかわかりませんが、状況に対応し、しっかり戦います」

アレックス・パロウ 選手:

"I could not do any lap due to many red flags because I just drove an out lap and could pass the line one time, when I was taking temperature on brakes and braking on the straight. The problem with the race now is that the wet race is nonstop and there is no strategy, and I am starting from the 17th, so it will very difficult. I will just try to be out of trouble in the race."

「赤旗が多く、アウトラップで出てラインを1度通過しただけで、その時にはブレーキディスクの温度を上げようとしてストレートでブレーキングしていたので、全くアタックできませんでした。ウェットコンディションでのレースはノンストップになるので戦略がありませんし、15番グリッドからのスタートになりますので、大変厳しい状況です。レースでは、とにかくトラブルを避けたいと思っています」

牧野 任祐 選手:

「アタックしようとしたら赤旗が掲示され、まともに走れなかったもので、タイムは予選不通過でした。このままの状況で決勝が行われるのかどうか分かりませんが、決勝が行われるのであれば、頑張るだけです」

<決勝レポート>

決勝開始前に雨が止み、路面はドライコンディションに。パロウ選手は15番グリッドからミディアムタイヤを装着してスタートを切ります。パロウ選手はうまくスタートを決め、11番手に浮上しましたが、その際に他車と接触し、フロントウイングに若干の損傷を負います。

2周目に他車のアクシデントによりセーフティカーが導入されたため、このタイミングでピットインを行い、ソフトタイヤへの交換とフロントウイングの交換を行いました。

順位が落ち着くと、パロウ選手は12番手を走行し、14周目には前走のマシンを捕らえ11番手に再浮上。その後、10番手のマシンもパス。中盤を終える頃、さらに前走をパスし9番手、残り20周を切ると8番手へと着実に順位を上げていきます。終盤では前走のマシンがピットインし7番手、さらに残り2周で6番手のマシンをパス。パロウ選手は、15番手から大きくポジションを上げてチェッカーを受け、6位入賞を果たしました。

一方、13番グリッドからソフトタイヤを装着してスタートを切った牧野選手は、そのままの順位で1周目を終えます。1周目を終えてすぐにピットインを行うマシンが現れ、2周目には9番手に。さらにセーフティカーが導入された時点でピットに入るマシンが続々と現れ、3番手まで順位を上げます。

牧野選手は25周目で前走のマシンにオーバITEイクを仕掛け、2番手に浮上。47周目では前走のマシンがピットインを行ったため、トップに躍り出るものの、ピットインの消化義務(2スペックタイヤ制によるタイヤ交換)を残した牧野選手は、少しでも後続にギャップを築こうとプッシュを続け、周回を重ねていきます。

残り4周でピットインを行った牧野選手は4番手でコースに復帰、そのポジションを守り切り、チェッカーを受けます。デビュー2戦目にして4位入賞を果たしました。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「開幕戦では2台とも残念な結果に終わってしまいましたが、一步一步前進できていると思います。次はもっと上に行けるように、チームで力を合わせて頑張っていきます。悪天候の中、たくさんのご声援をいただき、本当にありがとうございました」

アレックス・パロウ 選手:

"It was an exciting race and it was a good result considering we did not have the best strategy, had a front wing change and traffic, we finished P6. I'm really happy to get points and I'm also happy for Makino and the team because the team did a really fantastic job today. I really like Sportsland SUGO and enjoy it, which is a fantastic track with the old-style course, so I'm looking forward to the next race in Sugo. We are going to have a good chance with the much better car this year, and we are going to fight for win."

「最善の戦略ではなかったり、フロントウイング交換があったりした点を考慮すれば、6位フィニッシュはよい結果だと思います。ポイントを獲得できて嬉しいですし、牧野選手やチームの成果についても喜ばしく思います。今回、チームは素晴らしい仕事をしてくれました。次戦が行われるスポーツランド SUGO は私の好きなコースですので、楽しみにしています。今年のマシンはずっと調子がよいのでチャンスもありますし、優勝できるよう頑張ります」

牧野 任祐 選手:

「ソフトでスタートする戦略をとった点は結果的にはよかったと思う一方で、うまく行かなかった部分も若干ありました。しかし土曜日のフリー走行でのクラッシュや予選セッションの状況を考慮すれば、きちんとポイント獲得圏内でフィニッシュできましたし、ペースもよかったので、次戦は優勝できるように頑張ります」



※次戦(第3戦)は6月22日～23日にスポーツランドSUGO(宮城県柴田郡村田町)で行われます。

以上